

イブトレックス *IBTOREX*

痛み 熱に

私たちは、しばしば「生理痛」、「頭痛」、「歯痛」、「発熱」などに悩まされます。
がまんできない痛みや熱は苦痛であるばかりではなく、日常生活にも支障をきたします。
イブトレックス は、痛みや熱の原因となる物質（プロスタグランジン）ができるのを抑え、痛み・
熱にすばやくすぐれた効き目をあらわすイブプロフェンの製剤です。

イブトレックス の特長

- 痛み・熱に、はやく効きます。
- 痛みのもとにしっかり作用して、つらい痛みをよく抑えます。
- のみやすい小粒の錠剤です。



⚠ 使用上の注意



してはいけないこと

(守らないと現在の症状が悪化したり、
副作用が起こりやすくなります。)

- 次の人は服用しないでください
(1) 本剤又は本剤の成分によりアレルギー症状を起こしたことがある人。(2) 本剤又は他の
解熱鎮痛薬、かぜ薬を服用してぜんそくを起こしたことがある人。(3) 15歳未満の小児。
(4) 出産予定日12週以内の妊婦。
- 本剤を服用している間は、次のいずれの医薬品も使用しないでください
他の解熱鎮痛薬、かぜ薬、鎮静薬
- 服用前後は飲酒しないでください
- 長期連用しないでください



相談すること

- 次の人は服用前に医師、歯科医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください
(1) 医師又は歯科医師の治療を受けている人。(2) 妊婦又は妊娠していると思われる人。
(3) 授乳中の人。(4) 高齢者。(5) 薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある人。(6) 次
の診断を受けた人。心臓病、腎臓病、肝臓病、全身性エリテマトーデス、混合性結合組織病
(7) 次の病気にかったことのある人。胃・十二指腸潰瘍、潰瘍性大腸炎、クローン氏病
- 服用後、次の症状があらわれた場合は副作用の可能性があるので、直ちに服用を中止
し、この説明書を持って医師、歯科医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください

関係部位	症 状	関係部位	症 状
皮 膚	発疹・発赤、かゆみ、青あざができる	循環器	動悸
消 化 器	吐き気・嘔吐、食欲不振、胃痛、 胃部不快感、胸やけ、胃もたれ、腹痛、 下痢、血便、胃腸出血、口内炎	呼吸器	息切れ
精神神経系	めまい	その他	鼻血、歯ぐきの出血、出血が止まりにくい、 出血、背中の痛み、過度の体温低下、 目のかすみ、耳なり、むくみ、からだがだるい

裏面もお読みください

まれに下記の重篤な症状が起こることがあります。その場合は直ちに医師の診療を受けてください。

症状の名称	症 状
ショック (アナフィラキシー)	服用後すぐに、皮膚のかゆみ、じんましん、声のかすれ、くしゃみ、のどのかゆみ、息苦しさ、動悸、意識の混濁等があらわれる。
皮膚粘膜眼症候群 (スティーブンス・ジョンソン症候群) 中毒性表皮壊死融解症	高熱、目の充血、目やに、唇のただれ、のどの痛み、皮膚の広範囲の発疹・発赤等が持続したり、急激に悪化する。
肝機能障害	発熱、かゆみ、発疹、黄疸（皮膚や白目が黄色くなる）、褐色尿、全身のだるさ、食欲不振等があらわれる。
腎障害	発熱、発疹、全身のむくみ、全身のだるさ、関節痛（節々が痛む）、下痢等があらわれる。
無菌性髄膜炎	首すじのつっぱりを伴った激しい頭痛、発熱、吐き気・嘔吐等の症状があらわれる。（このような症状は、特に全身性エリテマトーデス又は混合性結合組織病の治療を受けている人で多く報告されている。）
ぜんそく	息をするときゼーゼー、ヒューヒューと鳴る、息苦しい等があらわれる。
再生不良性貧血	青あざ、鼻血、歯ぐきの出血、発熱、皮膚や粘膜が青白くみえる、疲労感、動悸、息切れ、気分が悪くなりくらっとする、血尿等があらわれる。
無顆粒球症	突然の高熱、さむけ、のどの痛み等があらわれる。

3. 服用後、次の症状があらわれることがあるので、このような症状の持続又は増強が見られた場合には、服用を中止し、医師、歯科医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください 便秘、下痢
4. 5～6回服用しても症状がよくならない場合は服用を中止し、この説明書を持って医師、歯科医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください

〔成分・分量〕 6錠中

成 分	分 量
イブプロフェン	450mg

添加物として結晶セルロース、乳糖水和物、クロスカルメルロースナトリウム、ステアリン酸マグネシウムを含む。

〔用法・用量〕

次の1回量を1日3回を限度とし、なるべく空腹時をさけて服用します。服用間隔は4時間以上おいてください。

年 齢	1 回 量
成人（15歳以上）	2錠
15歳未満は服用しない	

〔効能・効果〕

- 1) 頭痛・月経痛（生理痛）・歯痛・抜歯後の疼痛・咽喉痛・関節痛・神経痛・筋肉痛・腰痛・肩こり痛・打撲痛・耳痛・骨折痛・ねんざ痛・外傷痛の鎮痛
- 2) 悪寒・発熱時の解熱

〈用法・用量に関連する注意〉

(1) 用法・用量を厳守してください。

(2) 錠剤の取り出し方

右図のように錠剤の入っているPTPシートの凸部を指先で強く押して裏面のアルミ箔を破り、取り出してお飲みください。（誤ってそのまま飲み込んだりすると食道粘膜に突き刺さるなど思わぬ事故につながります。）



(PTPシートの取り出し図)

保管及び取扱い上の注意

(1) 直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に保管してください。(2) 小児の手の届かない所に保管してください。(3) 他の容器に入れかえないでください。（誤用の原因になったり品質が変わることがあります。）(4) 使用期限をすぎたものは服用しないでください。

お問い合わせ先

連絡先 ワキ製薬株式会社 お客様相談室
住 所 奈良県北葛城郡広陵町南郷898
電 話 0120-200-114
受付時間 午前9時から午後5時まで（土、日、祝日を除く）

製造販売元

WAKI ワキ製薬株式会社
〒635-0814 奈良県北葛城郡広陵町南郷898
URL: <http://www.a-kusuri.co.jp/>